

# 都市再生整備計画 事後評価シート

ひらふ高原地区

平成31年3月

北海道倶知安町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	北海道		市町村名	倶知安町		地区名	ひらふ高原地区			面積	187ha		
交付期間	平成26年度～平成30年度		事後評価実施時期	平成30年度		交付対象事業費	118	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	【道路】1路線(ニセコ高原山田線)、【高質空間形成施設】案内サイン16基、街路灯15基、【高次都市施設】観光中核施設										
		提案事業	【事業活用調査】事業効果分析調査、屋外広告物ガイドライン策定検討事業										
	当初計画から削除した事業	事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
		基幹事業	【地域生活基盤施設】ひらふ高原中央公園、サンスポーツランド	実施にあたっての地域との調整に時間を要すると判断したため			影響なし						
			【地域創造支援事業】沿道ストリートバナー整備事業(道道ニセコ高原比羅夫線及び道道蘭越ニセコ倶知安線の一部)	実施にあたっての地域との調整に時間を要すると判断したため			影響なし						
		提案事業	【地域創造支援事業】シンボルサイン整備事業(観光中核施設)	実施にあたっての地域との調整に時間を要すると判断したため			影響なし						
			【まちづくり活動推進事業】屋外広告物ガイドライン推進事業	実施にあたっての地域との調整に時間を要すると判断したため			影響なし						
			【まちづくり活動推進事業】観光中核施設運営計画作成	実施にあたっての地域との調整に時間を要すると判断したため			影響なし						
			【まちづくり活動推進事業】2次交通ネットワーク計画調査	ニセコ観光圏において、2次交通ネットワーク調査を実施			影響なし						
新たに追加した事業	基幹事業	-											
	提案事業	-											
交付期間の変更	当初	平成26年度～平成30年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-						
	変更	-		-			-						
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み				
	指標1	地区内定住人口増加率	%	△6.4	H24	0.0	H30	-	2.7	○	あり なし	0	なし
	指標2	再来訪意向率	%	75.1	H21	75.1	H30	-	96.2	○	あり なし	0	なし
指標3	満足度評価点	点	89.4	H21	89.4	H30	-	92.1	○	あり なし	0	なし	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み				
	その他の数値指標1	外国人観光客宿泊延数	日	273,928	H25	/	/	-	450,000	/	/	ニセコ高原山田線における歩行者に配慮した道路改良や、センターヴィレッジ地区、ペンションヴィレッジ地区への案内サイン・街路灯整備などにより、来訪者が過ごしやすい環境を構築することができ、指標の増加に繋がった。	平成31年6月
	その他の数値指標2					/	/	-	/	/			
その他の数値指標3					/	/	-	/	/				

## 様式2-1 評価結果のまとめ

4) 定性的な効果 発現状況	ひらふ高原地区のエリア内道路沿線の建築物と公共サインの調和が促進された。 歩道改良や街路灯の整備により安全性が向上し、滞在環境が改善された。
-------------------	---

様式2-1 評価結果のまとめ

		実施内容	実施状況	今後の対応方針等
5)実施過程の評価	モニタリング	実施なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	—
	住民参加プロセス	観光中核施設整備事業に関する住民参加型ワークショップ (みんなで考える観光中核施設！ワークショップ)	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	● 今後も住民の意見を聴取する場を設けることを検討する。
	持続的なまちづくり体制の構築	国際リゾート都市づくり検討会	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	● 今後、まちづくりの各種事業を進める際に官民横断的な組織は有用であることから、事業終了後も協議の場を設けることを検討する。

## 様式2-2 地区の概要

### ひらふ高原地区(北海道倶知安町) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
大目標 住みたくなるリゾート ニセコ高原ひらふ「安心・安全・きれいで元気なひらふ」 小目標 ①地元住民・事業者と長期滞在旅行者により構成される、上質なおもてなし空間を創造するリゾートコミュニティの構築 ②長期滞在旅行者に配慮した安全・安心で快適なリゾート環境の整備 ③雄大な自然景観を活かした魅力的なリゾート空間の形成	地区内定住人口増加率	%	△6.4 H24	0.0 H30	2.7 H30
	再来訪意向率	%	75.1 H21	75.1 H30	96.2 H30
	満足度評価点	点	89.4 H21	89.4 H30	92.1 H30

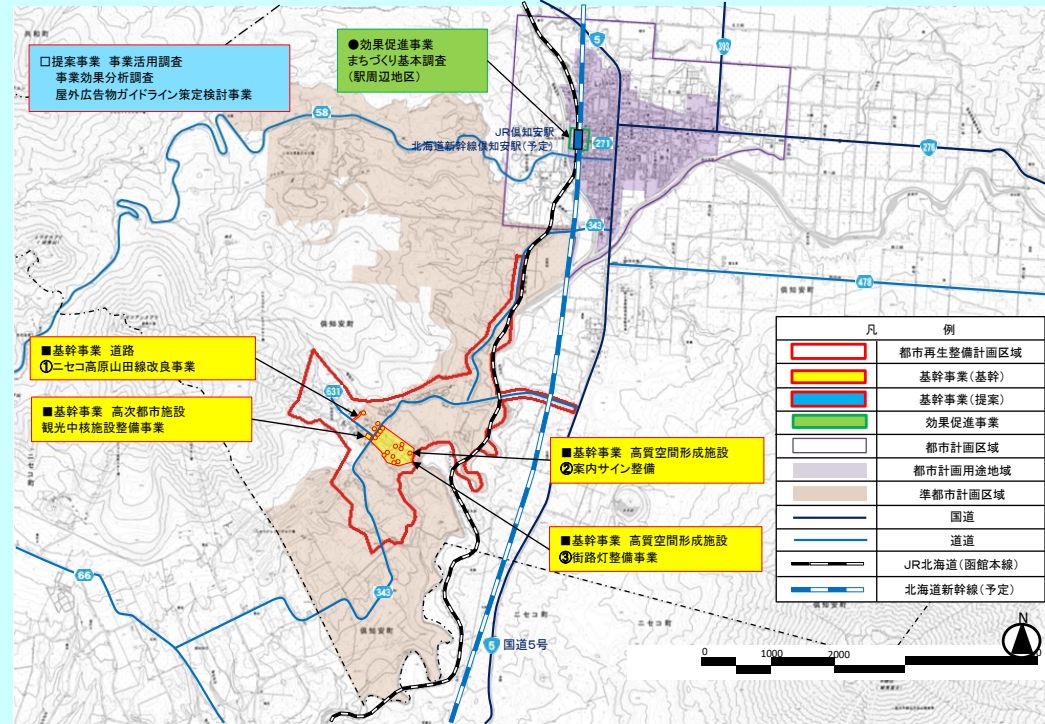
#### ①ニセコ高原山田線改良事業



改良前



改良後



#### ②案内サイン整備



#### ③街路灯整備事業



**まちの課題の変化**

- ・定住型事業者の撤退によるコミュニティ機能の低下及び長期滞在外国人旅行者のためのコミュニティ機能の不足
  - 地区内の定住者が減少傾向から増加傾向に転じたことと、エリアマネジメント組織が立ち上がったことにより、地域コミュニティによる今後の展開によるまちづくりに期待が高まっている。
- ・国内事業者による旧来と海外資本による新鋭が混在した混沌とした街並み及び歩行者に配慮されていない老朽化した生活基盤
  - ニセコ高原山田線の道路改良やペンションヴィレッジ地区等への街路灯及び案内サイン整備により、歩行者に配慮した良質な道路空間を供給することができた。一方で、幹線となる道道の交通量の増による交差点での渋滞や駐車場の確保などが課題となっている。
- ・自然景観に配慮した建築物、広告物等への誘導
  - 公共サインを整備することで、エリアにおけるサインのモデルを提示し、景観に配慮するための一定の基準ができたが、その他の工作物や開発行為に係る景観・まちづくりへの配慮が求められている。

**今後のまちづくりの方策(改善策を含む)**

- ・ニセコひらふエリアにおいて、エリアマネジメント組織も立ち上がったことで、今後は、参画事業者の増加を図るなどにより、更なるコミュニティ機能強化を図る。
- ・ひらふ高原地区内の道道(蘭越ニセコ倶知安線)整備が予定されていることから、渋滞などの域内交通課題解消に引き続き取り組む。
- ・観光や資産価値の視点に配慮した景観形成を図る。景観法に基づく、工作物や開発行為の基準を模索し、持続可能な観光振興に寄与するための方策を検討する。また、道道蘭越ニセコ倶知安線の無電柱化が予定されていることから、より良好な景観形成が期待される。

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●	-	-	-
B. 目標を定量化する指標		●	-	-	-
C. 目標値		●	-	-	-
D. その他( )		●	-	-	-

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	ニセコ高原山田線	70.0	ニセコ高原山田線の歩道新設	70.0	ニセコ高原山田線の歩道新設	-	-	●	
公園									
地域生活基盤施設	ひらふ高原中央公園、サンスポーツランド	150.0	公共用駐車場の機能充実	0.0	-	実施にあたっての地域との調整に時間を要すると判断したため	影響なし	-	-
高質空間形成施設	センターヴィレッジ地区、ペンションヴィレッジ地区	22.0	案内サインの設置(16基)	20.0	案内サインの設置(16基)	事業内容の精査による、減額	影響なし	●	
	ペンションヴィレッジ地区	6.0	街路灯の設置(15基)	7.0	街路灯の設置(15基)	事業内容の精査による、増額	影響なし	●	
高次都市施設	観光中核施設	600.0	観光中核施設の建設	36.0	観光中核施設の整備検討	当該施設の主要な機能と想定していたMICE対応のための会議場機能について、周辺地域における民間施設の整備が進んだため、必要性が弱まった。これにより、施設の役割や位置づけを再検討する必要が生じた。	影響なし	●	
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
優良建築物等 整備事業									
住宅市街地 総合整備 事業									
街なみ環境整 備事業									
住宅地区改良 事業等									
都心共同住宅 供給事業									
公営住宅等整 備									
都市再生住宅 等整備									
防災街区整備 事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	沿道ストリートバナー整備事業	15	道道ニセコ高原比羅夫線及び道道蘭越ニセコ倶知安線の一部にストリートバナーを設置(100基)	0.0	-	実施にあたっての地域との調整に時間を要すると判断したため	影響なし	-	-
	シンボルサイン整備事業	10	観光中核施設にシンボルサインを設置(1基)	0.0	-	実施にあたっての地域との調整に時間を要すると判断したため	影響なし	-	-
事業活用調査	事業効果分析調査	2	事業効果分析調査	2	事業効果分析調査	-	-		●
	屋外広告物ガイドライン策定検討事業	3	景観に配慮した屋外広告物のローカルルール策定のための実態把握調査	3	景観に配慮した屋外広告物のローカルルール策定	-	-	●	
まちづくり 活動推進事業	屋外広告物ガイドライン推進事業	4	景観に配慮した屋外広告物のローカルルールの推進	0.0	-	実施にあたっての地域との調整に時間を要すると判断したため	影響なし	-	-
	観光中核施設運営計画作成	8	観光中核施設の運営計画の策定	0.0	-	実施にあたっての地域との調整に時間を要すると判断したため	影響なし	-	-
	2次交通ネットワーク計画調査	50	2次交通充実のための調査・実証実験	0.0	-	ニセコ観光圏において、2次交通ネットワーク調査を実施	影響なし	-	-

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと



(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
	道道ニセコ高原比羅夫線高質化事業				H22～H26	H22～H26	道道ニセコ高原比羅夫線(ひらふ坂)部分の無電柱化及びロードヒーティングが完了	
	コミュニティ機能構築事業				H26～H29	H26～H29	MICE対応のコミュニティ機能の強化が進んだ	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値 (エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	目標 年度	モニタリング	確定	見込み	モニタリング	確定	見込み	あり
指標1	地区内定住人口増加率	%	-	-	△6.4	H24	0.0	H30	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定 ●	見込み	2.7	事後評価		
指標2	再来訪意向率	%	-	-	75.1	H21	75.1	H30	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定 ●	見込み	96.2	事後評価		
指標3	満足度評価点	点	-	-	89.4	H21	89.4	H30	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定 ●	見込み	92.1	事後評価		
指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)							その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)							
指標1	目標値に至ったため、「○」とした。							当初評価時点では地区内の人口は減少傾向であったため人口の維持を目標としたが、平成30年時点の評価では増加傾向が見られており、目標値を上回った。							
指標2	目標値に至ったため、「○」とした。							-							
指標3	目標値に至ったため、「○」とした。							-							

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2-② その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現の計測

指 標		単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値 (ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課 題等)
				基準 年度		基準 年度						
その他の 数値指標 1	外国人観光客宿泊延 数	日	訪日外国人宿泊者数調査結果より、外 国人観光客宿泊延数を算出した。	-	-	273,928	H25	モニタリング	-	-	ニセコエリアの外国人旅行者にお ける満足度評価の検証材料として 設定した。	指標3を補完するものとして設定 する。
								事後評価	確定	見込み ●		
その他の 数値指標 2								モニタリング	-	-		
									確定	見込み		
その他の 数値指標 3								モニタリング	-	-		
									確定	見込み		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

ひらふ高原地区のエリア内道路沿線の建築物と公共サインの調和が促進された。  
歩道改良や街路灯の整備により安全性が向上し、滞在環境が改善された。

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
実施なし	予定どおり実施した	-	-
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった		

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
観光中核施設整備事業に関する住民参加型ワークショップ(みんなで考える観光中核施設！ワークショップ)	予定どおり実施した	● 【実施頻度】平成28年度(2回) 【実施時期】平成28年7月 【実施結果】観光中核施設の建物内部や外観、敷地の使い方等について住民参加型のワークショップを2回実施し、検討を行った。	今後も住民の意見を聴取する場を設けることを検討する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった		

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
国際リゾート都市づくり検討会	予定どおり実施した	● 【実施頻度】平成26年度(1回)、平成28年度(1回)、平成29年度(1回) 【実施時期】平成26年11月、平成28年7月、平成30年2月 【実施結果】町職員のほか、住民、関連団体、有識者等による検討会を設置し、観光中核施設の整備を中心とした計画の検討を行った。会議の実施により、関係者への事業周知や連携強化が図られるとともに、新幹線開業などに伴う市街地エリアとの連携方策等、より広い視点による検討が実施できた。	国際リゾート都市づくり検討会 (地域住民のほか観光協会等の関連団体、学識経験者、建築関連の専門家、町職員など)	今後、まちづくりの各種事業を進める際に官民横断的な組織は有用であることから、事業終了後も協議の場を設けることを検討する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
俱知安町都市再生整備計画事後評価関係課会議	総合政策課、住民環境課、観光課、まちづくり新幹線課、建設課	平成31年1月21日	観光課、まちづくり新幹線課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標1	指標2	指標3	その他の数値指標1		
指標名		地区内定住人口増加率	再来訪意向率	満足度評価点	外国人観光客宿泊延数		
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	【道路】ニセコ高原山田線	○	景観に配慮した公共案内サインの設置により、街並み景観の向上が図られ、定住人口の増加に繋がった。	◎	ニセコ高原山田線における歩行者に配慮した道路改良や、センターヴィレッジ地区、ペンションヴィレッジ地区への案内サイン・街路灯整備などにより、来訪者が過ごしやすい環境を構築することができ、指標の達成に繋がった。	◎	ニセコ高原山田線における歩行者に配慮した道路改良や、センターヴィレッジ地区、ペンションヴィレッジ地区への案内サイン・街路灯整備などにより、来訪者が過ごしやすい環境を構築することができ、指標の増加に繋がった。
	【地域生活基盤施設】ひらふ高原中央公園、サンスポーツランド(削除)	-		-		-	
	【高質空間形成施設】センターヴィレッジ地区、ペンションヴィレッジ地区(案内サイン)	○		◎		◎	
	【高質空間形成施設】ペンションヴィレッジ地区(街路灯)	○		◎		◎	
	【高次都市施設】観光中核施設	○		-		-	
提案事業	【地域創造支援事業】沿道ストリートパナー整備事業(削除)	-	-	-	-	-	-
	【地域創造支援事業】シンボルサイン整備事業(削除)	-	-	-	-	-	-
	【事業活用調査】事業効果分析調査	-	-	-	-	-	-
	【事業活用調査】屋外広告物ガイドライン策定検討事業	○	○	○	○		
	【まちづくり活動推進事業】屋外広告物ガイドライン推進事業(削除)	-	-	-	-		
	【まちづくり活動推進事業】観光中核施設運営計画作成(削除)	-	-	-	-		
関連事業	道道ニセコ高原比羅夫線高質化事業	-	-	-	-	-	-
	道道蘭越ニセコ俱知安線歩道整備事業	-	-	-	-	-	-

※指標改善への貢献度

◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。

○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。

△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に

貢献しなかった。

-：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	指標1	指標2	指標3	その他の数値指標1
景観向上に係る取組を継続的に行い、定住人口の増加を図ることでコミュニティ機能の強化に活かす。	一定程度、来訪者が過ごしやすい環境が構築されたため、利便性向上のための取組を継続的に行い、高率の再来訪意向率の維持に活かす。	設置された公共サインにより、地域に設置するサインのモデルが提供されたため、今後設置するデザインの横展開に活用する。	一定程度、来訪者が過ごしやすい環境が構築されたため、利便性向上のための取組を継続的に行い、外国人観光客宿泊延数増に活かす。	



#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
俱知安町都市再生整備計画事後評価関係課会議	総合政策課、住民環境課、観光課、まちづくり新幹線課、建設課	平成31年1月21日	観光課、まちづくり新幹線課

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
定住型事業者の撤退によるコミュニティ機能の低下及び長期滞在外国人旅行者のためのコミュニティ機能の不足	地区内の定住者が減少傾向から増加傾向に転じたとともに、エリアマネジメント組織が立ち上がったことにより、地域コミュニティによる今後の展開によるまちづくりに期待が高まっているほか、人口増とともに、会議スペースなど、コミュニティの構築に必要な機能が民間ベースで整備されてきている。	特になし	引き続き人口増、創設されたエリアマネジメント団体への地域事業者の加入増によるコミュニティ機能の強化が求められる。
国内事業者による旧来と海外資本による新鋭が混在した混沌とした街並み及び歩行者に配慮されていない老朽化した生活基盤	ニセコ高原山田線の道路改良やペンションヴィレッジ地区等への街路灯及び案内サイン整備により、歩行者に配慮した良質な道路空間を供給することができた。	特になし	観光客増、施設増による渋滞などの域内交通課題解消に向けて、継続的な対応が求められる。
自然景観に配慮した建築物、広告物等への誘導	公共サインの整備により、景観に配慮するための一定のモデルができた。	特になし	観光や資産価値の視点に配慮した景観形成が求められる。景観法に基づく、工作物や開発行為の基準を模索し、持続可能な観光振興への寄与が求められる。

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	コミュニティ機能の持続	定住者を減少させることなく、コミュニティ機能の持続を図る	
	良質な歩行空間の持続	整備した歩行空間を適切に維持管理することで、良質な歩行空間の持続を図る	
	良好な景観形成の継続	景観に配慮した公共サインの整備を進め、良好な景観形成を図る	

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	コミュニティ機能の強化	地域課題解決のためのエリアマネジメント団体の強化、DMOによる観光まちづくりの進展	地域DMO導入、エリアマネジメント団体との連携
	観光客増により生じた域内交通課題の解消	域内交通インフラ整備、交通拠点の観光視点での検討	道道蘭越ニセコ倶知安線整備、観光振興計画・観光地マスタープラン策定
	観光視点、資産価値視点に配慮した景観形成、持続可能な観光振興	観光地であるという特性に立った景観形成の促進、経済活動の活性化を起す景観形成の促進	観光振興計画・観光地マスタープラン策定、工作物・開発行為基準設定検討、道道蘭越ニセコ倶知安線無電柱化

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

● 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
● 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
● 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
● 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
● 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見



・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。  
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	地区内定住人口増加率	%	△6.4	H24	0.0	H30	確定 ●	2.7	○	あり	なし	-	-
							見込み			なし			
指標2	再来訪意向率	%	75.1	H21	75.1	H30	確定 ●	96.2	○	あり	なし	-	-
							見込み			なし			
指標3	満足度評価点	点	89	H21	89	H30	確定 ●	92	○	あり	なし	-	-
							見込み			なし			
その他の数値指標1	外国人観光客宿泊延数	日	273,928	H25	/	/	確定	450,000	/	/	平成31年6月	訪日外国人宿泊者数調査による	なし
							見込み ●						
					/	/	確定		/	/			
							見込み						
					/	/	確定		/	/			
							見込み						



### 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	いずれの指標においても、目標値を大きく上回る結果となった。	定住人口の増加要因などを分析し、今後、他地区におけるまちづくり等の検討に活用する。
	うまくいかなかった点	特になし	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	特になし	目標達成のために実施する事業内容について、関連付けて検証しやすいものとなるよう熟慮して設定する。
	うまくいかなかった点	特に指標1において、事業の効果と目標の達成状況を直接的に結び付けて検証することができなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	特になし	必要に応じてWS等を開催しながら住民参加を促し、HP等を活用して情報提供の充実に努める。
	うまくいかなかった点	特になし	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	国際リゾート都市づくり検討会の設置により、官民連携によるまちづくり体制を構築することができた。	当該検討会を参考とし、官民が連携して検討できる体制の構築に努める。
	うまくいかなかった点	特になし	
その他	うまくいった点	特になし	
	うまくいかなかった点	特になし	

### 添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

なし

## (5) 事後評価原案の公表

### 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	町ホームページによる公表	平成31年1月28日～平成31年2月12日	2週間	・メール ・電話 ・FAX	観光課、まちづくり新幹線課
広報掲載・回覧・個別配布	—	—	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	観光課窓口における閲覧	平成31年1月28日～平成31年2月12日	2週間		

住民の意見	意見なし				
-------	------	--	--	--	--

## (6) 評価委員会の審議

### 添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	(一社)地域研究工房 代表理事 小磯 修二	平成31年2月22日	観光課、まちづくり新幹線課	国際リゾート都市づくり検討会 設置要綱	独自に設置
その他の委員	国際リゾート都市づくり検討会委員 阪井 啓司、渡辺 淳子、田中 義人、吉田 聡、本間 浩規、青木 夏 暁、東内 学爾、荒川 祥子、西田 信				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	問題なし
	成果の評価	原案のとおり了承
	実施過程の評価	原案のとおり了承
	効果発現要因の整理	原案のとおり了承
	事後評価原案の公表の妥当性	妥当である
	その他	特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	妥当に進められた

審議事項※1		委員会の意見
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	原案のとおり了承
	フォローアップ	(実施しない)
	その他	特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	妥当である
その他	特になし	

### (7) 有識者からの意見聴取

#### 添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式8)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入してください。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--